

創立30周年記念事業について

校長 林 静 男

本校は、1985年に流通経済大学の付属高校として千葉県柏市に開校して以来、「智識（智慧と見識）の涵養と眞理探求の精神を培い、日本の教養と国際性を身につけながらスポーツや文化活動の振興によって、正義、誠実の心と勇氣ある気質を育てる」という教育方針のもと、今日まで着実に歩んでまいりました。

今年で創立30年目を迎えますが、この間、学校を取り巻く環境は大きく変化し、情報化や国際化の進展、少子高齢化による社会構造の変化、上級学校進学や就職・雇用形態の多様化、景気回復が期待されながらも長引く不況、厳しい国際情勢、そして携帯電話やスマートフォン、インターネットの普及などは、私たちの生活やものに対する考え方を変化させ、特に若者達に与えた影響は大きなものがあります。

こうした変化に対応すべく本校では、これまでにⅠ・Ⅱ・Ⅲ類のコース制の導入や独自の週6日制、多様な進学に合わせた教育課程の工夫改善、高大連携、学校行事や国際交流の充実など様々な教育改革を行ってきました。そして、時代に即した改革に努める一方、生徒の学力向上と心身の健やかな成長を図るための教育環境の整備に力を入れてまいりました。

特に施設面においては、入学者が徐々に増えはじめた2011年頃から、アクセスの改善を含めた環境整備事業を展開して充実を図っています。この事業は、いずれも学校法人日通学園・流通経済大学からの支援を受け、本校創立30周年記念事業の前倒しとして行っているものです。本校の中長期的な展望を見据え、学園本部と協議して策定した事業計画に基づき、第1期から第3期工事に分けて順次計画的に整備してきました。

創立30周年記念事業として行ってきた第1期から第3期までのハード面の整備、そして、これから行うソフト面の整備計画に関する概要は次のとおりです。

1. 第1期工事（2011年12月～2012年4月）

[多目的棟建設・スクールバスロータリー移転・駐輪場改修工事]

正門近くに2階建の多目的棟（現在の部室棟）を建設するまでの一連の整備が第1期工事で、校内にあったスクールバス駐車場（発着所）の移転から始めました。2009年に㈱東武バスイーストと契約を結び江戸川台駅からスクールバスの運行を開始。その後自転車利用者が大幅に減り、駐輪場を約半分に縮小する改修工事を行いました。そして、解体した場所（公道沿い）に屋根付のスクールバスロータリー・バス専用駐車場・運転管理室等を建設しました。

次に、元のスクールバス駐車場と老朽化した卓球場を解体した跡地に2012年4月初旬の完成を目指し、多目的棟の建設工事に着手しました。この建物は本来、老朽化した部室棟や卓球場、トレーニング場等を集合して建て替える目的でしたが、生徒が増えて教室が不足気味だったので、入学者の増加に対応する予備教室をつくっておくことにしました。普通教室を備えた多目的棟として建設しておき、新校舎の完成（第2期工事）を待つことにしたのです。1階には卓球場・トレーニング場・部室等を、2階は後で部室に改修できるように普通教室(3)・小教室(1)・教員

控室等をつくりました。

多目的棟は 2012 年 4 月に予定どおり完成し、一連の第 1 期工事が完了。この年の入学手続き者は予想を上回り、多目的棟完成と同時に 2 階の 3 教室には 26 期生 3 年のⅡ類 3 クラスが入りました。生徒増に対応する万全の備えが、功を奏する結果となりました。

2. 第 2 期工事（2012 年 6 月～2013 年 6 月）

[新校舎（2 号館）建設・駐車場移転（隣接地取得）・多目的棟改修（部室棟へ）]

近年の生徒増に対応するため、本格的な普通教室の増設を目的に建設したのが新校舎（2 号館）です。2012 年 6 月に着工、年度内の完成を目指しました。

最初に、建設予定地となる教職員駐車場の移転から始めました。第 1 グランド南側の隣接地を事前に取得し、竹藪だったところを切り拓いて教職員駐車場（舗装）と行事時の臨時駐車場（砂利敷）とし、合わせて 136 台収容可能な駐車場に整備しました。

駐車場完成（移転）と同時に新校舎の基礎工事が開始されました。新校舎は 4 階建てで、1 階は自然の竹林が臨める 230 席の生徒食堂「カフェテリア」、2 階は第 2 職員室・90 名まで受講可能な多目的視聴覚教室・会議室、3 階と 4 階は普通教室がそれぞれ 3 教室（計 6 教室）と女子更衣室 2 部屋を備えました。エレベータも完備され、本校舎（1 号館）とは 1 階と 2 階から行き来できるよう連絡通路で結ばれています。

新校舎は 2013 年 3 月末に予定どおり完成して 2 号館と命名、4 月から第 27～29 期生Ⅲ類の 6 クラスが入って使用を開始、1 階の生徒食堂「カフェテリア」も同時にオープンし、その後も順調に営業しています。

新校舎完成後、1 年間使用した多目的棟 2 階の 4 教室すべてを部室にする改修工事を行い、呼名を多目的棟から部室棟に改称。付帯設備として、テニスコート側に部活用の倉庫（耐久性に優れた 3 連結のプレハブ）を建て、2013 年 6 月末に第 2 期工事が完了しました。

3. 第 3 期工事（2013 年 6 月～2014 年 10 月）

[第 2 体育館建設・野球雨天練習場移転・柔道場改修]

学校行事やコース・学年単位の集会、説明会などに幅広く活用しながら、体育の授業や課外活動等の充実を図る目的で建設したのが第 2 体育館（第 3 期工事）です。場所は、古い施設（部室棟・トレーニング場・野球雨天練習場・倉庫等）が並んでいたところで、建築物はすべて解体し、野球雨天練習場は野球場のバックスクリーン後方に移転（新築）しました。

第 2 体育館は 2014 年 9 月に完成。これまでの体育館（第 1 体育館）より幾分小振りですが、2 階建てで 1・2 階合わせた総床面積では第 1 体育館を上回ります。校庭の人工芝や周囲の緑ともマッチしたデザインで、LED 照明や電動遮光ロールスクリーン、自動点灯システムなど最新の器材が多く使われています。

メインコートとなる 2 階は 10m を超える天井高が確保され、休憩コーナー（エアコン付）のほかに部室（3）や倉庫などが備えられています。1 階には冷暖房完備のサブコート（剣道がメインの多目的フロア）をはじめ、管理室（教員控室）・来客用控室・用具庫（剣道）・倉庫・女子用のシャワー室などがあり、第 1 体育館と行き来する通路や屋外から直接利用できるトイレもついています。また、第 2 体育館と弓道場との間に生徒会備品と屋外の授業で使用する体育用具を入

れる3連結のプレハブ倉庫を建て、周囲を綺麗に整備（芝花壇以外は舗装）しました。

第2体育館の周辺整備が終了した後、最後に第1体育館2階柔道場の拡張工事（間仕切りを取り除き、旧剣道場の床面を畳にして倍の広さに拡張）を行い、第3期工事は2014年10月末をもってすべて完了しました。

4. 新たな教育システムの構築（2014年4月～2017年3月）

[教育改革・ソフト面の整備]

学園本部や保護者各位のご理解とご協力のおかげで、第1期から第3期工事まで大きな事故やトラブルもなく、これまで計画通り進めることができました。今後、図書室の書庫や第2パソコン教室（新校舎2階の多目的教室の改装）の整備なども行わなければなりません、「創立30周年記念事業」としての大掛りなハード面の整備は、今回の第3期工事をもって完了となります。

今後は、学習教育体制の充実や課外活動（スポーツ活動・文化活動）の振興等を目的とした基金の設置、それらを実現するための支援体制の強化を図るなど、ソフト面の充実に向けての施策を講じていく必要があります。そして、新たに建設した施設などをフルに活用して効果をあげる教育システムを構築し、知識の習得、体力・人間力の向上を高める教育に全力を注がなければなりません。あらゆる面で、教育の中身・質の向上が求められることは必至です。

そこで2014年4月から、校内に「学校改革検討委員会」を立ち上げ、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類コースをより充実させるための改革や教育課程の見直し、独自の学校6日制で土曜日を有効活用する体制づくり、進路・キャリア教育の確立、情報処理能力の向上に繋がるような教育改革を行うためのソフト面の整備に向けて取り組んでいるところです。

学校改革（教育改革）は第32期生が入学する2016年度からの実施を予定していますが、先取り可能な部分は早めに移行するつもりです。そして、流通経済大学との一貫教育の更なる充実を図るとともに、国公立大学や難関私立大学などを目指す生徒の進路実績の向上、多様な進学に対応できる進学指導体制の強化を目指します。また、グローバル社会で活躍できるよう、英語を中心とした語学教育や国際交流などにも力を入れ、スポーツや文化活動等の活性化を図りながら、総合的な人間力の向上に繋がりたいと思います。

少子化の流れの中で、学校社会は様々な課題に直面しています。変化の激しい現代社会を逞しく力強く生き抜く力を養った生徒を社会に送り出すためには、教育の成果が問われることは間違いありません。生徒の個性や能力を最大限に引き出し、心豊かで社会の変化に柔軟に対応できる人材の育成を目指した教育に一層磨きをかけて行く必要があります。

本校の創設者である佐伯弘治学園長は本校の目指す生徒像について、「リベラルな校風の下、穏やかで、ちょっと都会的で、スマートな味わいのある生徒」（1994.1.7教職員への講話）と話されたことがあります。自由闊達な校風を培いながら、思いやりの心と奉仕の精神を養い、将来のリーダーとして活躍できる人間の育成を図るため、様々な教育活動を展開して魅力のある信頼される学校づくりに努めて行かなければなりません。

これからも、社会で活躍できる有為な人材を育成するための教育環境の整備に努めると同時に、本校創立30周年を機に一層の飛躍を遂げられるよう、教職員一丸となって努力してまいりたいと思います。